

使徒 22

“「兄弟たち、父たちよ。いま私が皆さんにしようとする弁明を聞いてください。」パウロがヘブル語で語りかけるのを聞いて、人々はますます静粛になった。そこでパウロは話し続けた。”

使徒の働き 22章 1～2節

“「私はキリキヤのタルソで生まれたユダヤ人ですが、この町で育てられ、ガマリエルのもとで私たちの先祖の律法について厳格な教育を受け、今日の皆さんと同じように、神に対して熱心な者でした。

私はこの道を迫害し、男も女も縛って牢に投じ、死にまでも至らせたのです。

このことは、大祭司も、長老たちの全議会も証言してくれます。この人たちから、私は兄弟たちへあてた手紙までも受け取り、ダマスコへ向かって出発しました。そこにいる者たちを縛り上げ、エルサレムに連れて来て処罰するためでした。”

使徒の働き 22章 3～5節

“ところが、旅を続けて、真昼ごろダマスコに近づいたとき、突然、天からまばゆい光が私の回りを照らしたのです。

私は地に倒れ、『サウロ、サウロ。なぜわたしを迫害するのか』という声を聞きました。そこで私が答えて、『主よ。あなたはどなたですか』と言うと、その方は、『わたしは、あなたが迫害しているナザレのイエスだ』と言われました。”

使徒の働き 22章 6～8節

“私といっしょにいた者たちは、その光は見たのですが、私に語っている方の声は聞き分けられませんでした。

私が、『主よ。私はどうしたらよいのでしょうか』と尋ねると、主は私に、『起きて、ダマスコに行きなさい。あなたがするように決められていることはみな、そこで告げられる』と言われました。

ところが、その光の輝きのために、私の目は何も見えなかったもので、いっしょにいた者たちに手を引かれてダマスコに入りました。”

使徒の働き 22章 9～11節

“すると、律法を重んじる敬虔な人で、そこに住むユダヤ人全体の間で評判の良いアナニヤという人が、

私のところに来て、そばに立ち、『兄弟サウロ。見えるようになりなさい』と言いました。すると、そのとき、私はその人が見えるようになりました。

彼はこう言いました。『私たちの父祖たちの神は、あなたにみこころを知らせ、義なる方を見させ、その方の口から御声を聞かせようとお定めになったのです。

あなたはその方のために、すべての人に対して、あなたの見たこと、聞いたことの証人とされるのですから。

さあ、なぜためらっているのですか。立ちなさい。その御名を呼んでバプテスマを受け、自分の罪を洗い流しなさい。』”

使徒の働き 22章 12～16節

“こうして私がエルサレムに帰り、宮で祈っていると、夢ごちちになり、

主を見たのです。主は言われました。『急いで、早くエルサレムを離れなさい。人々がわたしについてのあなたのあかしを受け入れないからです。』

そこで私は答えました。『主よ。私がどの会堂でも、あなたの信者を牢に入れたり、むち打ったりしていたことを、彼らはよく知っています。

また、あなたの証人ステパノの血が流されたとき、私もその場において、それに賛成し、彼を殺した者たちの着物の番をしていたのです。』

すると、主は私に、『行きなさい。わたしはあなたを遠く、異邦人に遣わす』と言われました。』”

使徒の働き 22章 17～21節

”人々は、彼の話をごここまで聞いていたが、このとき声を張り上げて、「こんな男は、地上から除いてしまえ。生かしておくべきではない」と言った。”

使徒の働き 22章 22節

”そして、人々がわめき立て、着物を放り投げ、ちりを空中にまき散らすので、千人隊長はパウロを兵營の中に引き入れるように命じ、人々がなぜこのようにパウロに向かって叫ぶのかを知ろうとして、彼をむち打って取り調べるようにと言った。

彼らがむちを当てるためにパウロを縛ったとき、パウロはそばに立っている百人隊長に言った。「ローマ市民である者を、裁判にもかけずに、むち打ってよいのですか。」”

使徒の働き 22章 23～25節

”これを聞いた百人隊長は、千人隊長のところに行って報告し、「どうなさいますか。あの人はローマ人です」と言った。

千人隊長はパウロのところに来て、「あなたはローマ市民なのか、私に言ってくれ」と言った。パウロは「そうです」と言った。

すると、千人隊長は、「私はたくさんの金を出して、この市民権を買ったのだ」と言った。そこでパウロは、「私は生まれながらの市民です」と言った。

このため、パウロを取り調べようとしていた者たちは、すぐにパウロから身を引いた。また千人隊長も、パウロがローマ市民だとわかると、彼を鎖につないでいたので、恐れた。”

使徒の働き 22章 26～29節

”しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。

この人々は、血によってではなく、肉の欲求や人の意欲によってでもなく、ただ、神によって生まれたのである。”

ヨハネの福音書 1章 12～13節

”こういうわけで、あなたがたは、もはや他国人でも寄留者でもなく、今は聖徒たちと同じ国民であり、神の家族なのです。”

エペソ人への手紙 2章 19節

”その翌日、千人隊長は、パウロがなぜユダヤ人に告訴されたのかを確かめたいと思って、パウロの鎖を解いてやり、祭司長たちと全議会の召集を命じ、パウロを連れて行って、彼らの前に立たせた。”

使徒の働き 22章 30節

”その夜、主がパウロのそばに立って、「勇気を出しなさい。あなたは、エルサレムでわたしのことをあかししたように、ローマでもあかしをしなければならない」と言われた。”

使徒の働き 23章 11節